

学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ

真剣味



中京大学

広報184号

2015年7月24日発行

主な内容

- ②-③ 教育新体制
- ④-⑥ グローバル教育支援を推進
 - ⑥ 本学含む合同チームが智能ロボットの国際大会6位
 - ⑦ 科学研究費助成事業に新規17件
- ⑧-⑨ 中京大学決算 / 梅村学園決算
 - ⑩ 中京人往来「中日ドラゴンズ職員・桂川昇さん」
 - ⑪ 中京大学予算 / 梅村学園予算
- ⑫-⑬ 2016年度入試日程
- ⑭-⑮ 7つの研究力「人工知能高等研究所」
- ⑯-⑰ ゼミにフォーカス「国際的な課題」
- ⑱-⑲ 学生たちの学習成果



Campus Shot | 名古屋キャンパス アレーナ211 (2号館)

学生たちがグループ学習や昼食時の憩いの場として活用しているほか、ホールとしてクラブ活動の演奏会などを開いている。学生たちが自由に使用できるラウンジはほかにも、名古屋キャンパスに16カ所、豊田キャンパスに1カ所。自主的な学修や学生同士のコミュニケーションを促している。

発行 中京大学 広報部

〒466-8666名古屋市昭和区八事本町101-2
TEL.052-835-7111(代)

着実に進展

中京大学の長期計画「NEXT10」が着実に進んでいる。NEXT10は、「しなやかに挑み続ける新生・中京大学」を目標に掲げ、教育、研究、社会連携、国際化、卒業生連携の五分野を骨子としている。2014年度には11件の重点化プロジェクト、11件の採択事業が検討されている。このうち、教学ガバナンス見直し、教育研究支援体制構築、教育構想会議設置などのプロジェクトが、今年4月に具体化された。

NEXT10は、「建学の精神『学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ』を具現化すること」（梅村理事長）、同時に、大学を取り巻く環境の変化に対応して不断の改革を実行することを目的にしている。

推進状況に手応え

多くの教職員に係わってもらい、広い視野で問題点が網羅されたのがNEXT10です。検討プロセスにおいては、様々な意見や批判もありましたが、そうした議論はいいことだと思っ手応えを感じています。策定し

改革には様々なことを同時並行して進める必要があります。既成概念にとらわれないことが重要だと思っています。一方で、伝統を引き継ぎつつ磨いていく、バランスも必要で、適宜新しいプロジェクトにも着手していきます。



梅村清英理事長

たプロジェクトを実行していくことが任務だと考えています。実行していけば必ず良い方向に進む。方向がぶれないよう、努力していきたいと考えています。

重視しているのは、「主役は学生」という部分です。在学生には、より満足してもらえらるること、教職員が意識改革を進め、協働体制を敷いていくことが重要です。

「教育構想会議」など 研究の諸組織4月設置

「教育構想会議」（議長・種田行男副学長）が学長の諮問機関として4月に設置された。これまで学部単位で検討されてきた教育上の課題を全学で議論する場となる。

すでに、春学期には学長からの諮問事項「学生を知る」をテーマに、調査項目や使用方法などの議論が始まっている。また、第二の諮問事項「成績評価の厳正化」のため、公平性の担保、グローバル化に対応した教育の質の担保も検討されている。秋学期には、高大接続テスト導入などを見据え、中京大学のオリジナリティを点検し、社会にわ

かりやすく示す方法を議論することになっている。

教育の質的向上のため、「教育推進センター」（センター長・鈴木崇児経済学部教授）が4月に開設された。従来のFD（授業改善）委員会を継承しつつ新たな教育的課題にも対応するため、専門の事務組織も新たに設けた。教育構想会議の答申の受け皿にもなる。また、本学は教職志望の学生が多く、そうした学生の支援を強化するため、「教職センター」（センター長・杉江修治

また自校教育については、「私大として建学の精神を踏まえつつ、中京大学を知る」の科目化を検討している」（安村学長）。

国際教養学部長）も開設された。大学院については、「大学院委員会」が4月に発足し、大学院教育に共通した問題を共有し、活性化の方策を議論している。大学の研究力を結集して高度な学際的研究を推進する「先端共同研究機構」（機構長・檜山幸夫社会科学研究所長）が4月に設置された。機構は、既存の研究所とも協力していく。

また自校教育については、「私大として建学の精神を踏まえつつ、中京大学を知る」の科目化を検討している」（安村学長）。



NEXT10の進捗状況を教職員に説明する梅村清英理事長

留学生の受け入れ拡大へ

本学から海外への派遣は年々増え、2014年度は15か国約612人に達している。今後は「留学生の派遣と受け入れが課題だが、数だけではなく質の向上を目指している」（安村学長）。将来的には単なる交換留学ではなく、「双方の大学で学位が取れる、共同で学位を出すなど踏み込んでいきたい」（梅村理事長）としている。

海外の大学などとの新たな交流協定は、イタリアのヴェネツィア大学(5月)、韓国の地山学園(5月)、韓国総領事館(6月)と矢継ぎ早に提携しており、今後も拡大していく方針だ。アジアを中心とした新興国からの留学生を迎え入れる体制づくりも今後の課題としている。今年度中に、台湾の嘉義大学と協定を締結する方向で調整がなされている。

「NEXT10」

いずれのプロジェクトも、教員と職員による「教職協働」で推進しているのが特徴となっている。具体化されたプロジェクトを中心に、NEXT10の取り組みを紹介する。

重点プロジェクト	取り組み時期				
	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
教育構想会議プロジェクト	←→				
自校教育検討プロジェクト	←→				
研究振興委員会プロジェクト	←→				
大学院委員会プロジェクト	←→				
国際化推進プロジェクト	←→				
キャリア教育・支援委員会プロジェクト	←→				
学生支援システム構築プロジェクト	←→				
奨学金・学費減免見直しプロジェクト	←→				

学生の主体性大事

NEXT10の教育分野では、「自ら考え行動する、しなやかな知識人の育成」をスローガンにしています。大学は、学生が主体的に選び取り、選び取ったことに責任を持ち、自律的に成長していきける「装置」と「場」を提供していきます。それは、授業やカリキュ

ラム、あるいは施設、そして何よりも学生の能力を引き出す場、機会です。

私は学生が大学の主人公であると強調していますが、主人公であるためには学生も自ら考える主体性をもつことが大事です。学生はお客ではありません。大学の方針や姿勢を理解しながら、しっかりと主体的に学んでほしい。教員には、学生をそうした学びに導く役割を果たしていただきたいと思っています。

NEXT10の事業推進にあたっては、教員と職員がしっかりと協力して取り組む体制をとっていますが、学長の仕事は全体を見ることだと思っています。NEXT10の個別の事業に指示をするとともに、全体を調整するのが役目だと思っています。

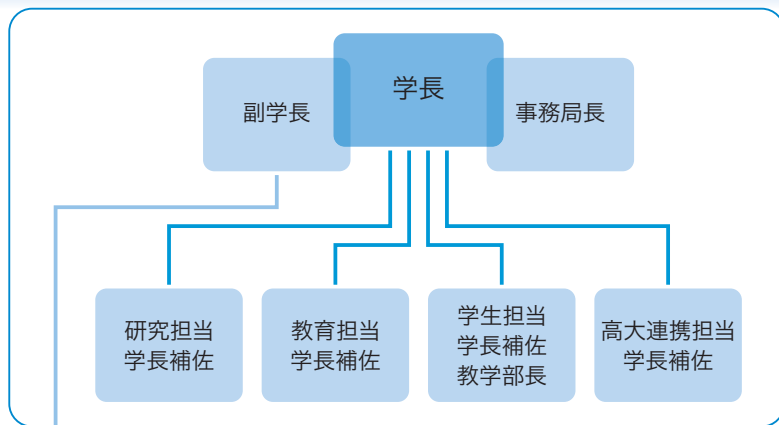


安村仁志学長

学長の権限を明確化 機動性のある体制へ

学校教育法の改正により、学長の権限が明確にされた。これに伴い、本学では学長がリーダーシップを発揮できるよう、4

学長を補佐する新体制（副学長+4人の学長補佐+事務局長）



教育構想会議
(学長の諮問会議)

議長…副学長

学生支援システム構築

学生が自ら記入する学修、進路、留学、資格、課外活動の5項目からなる「学生ポートフォリオ」と「学生カルテ」を作成し、学生を個々に支援するシステムを構築する予定。こうした学生支援システムを活用するために、教員による「学修アドバイザー」の導入を検討している。ともに2017年度からの稼働を目的に構築中。

学校教育法の改正に基づき、教授会の役割を明確にし、学則や規程を見直した。これにより、学長が意思決定し、決定に責任を持つことになった。

また学部長の補佐として副学部長を置き、学部長を中心とした円滑な学部運営を行いやすくした。副学部長は教学調整会議に参加し教学審議会の事前調整を行う。

は大切にしつつ機能的に、一定のスピード感を持って課題の推進に努めていく(安村学長)体制となった。

グローバル教育を推進 相次いで協定を締結

学校法人梅村学園、中京大学はグローバルな教育支援を推進するため、
韓国の漢西高等学校、駐名古屋大韓民国総領事館と連携・協力に関する協定を、
またイタリアのヴェネツィア大学と学術交流協定を締結した。

日韓国交正常化50周年の節目 人材育成や教育的交流視野に

梅村
学園

駐名古屋大韓民国総領事館

学校法人梅村学園と駐名古屋大韓民国総領事館は6月5日、グローバルな教育支援を図るための連携・協力に関する協定を締結した。駐名古屋大韓民国総領事館が大学と協定を結ぶのは本学が初めて。

調印式で梅村清英理事長は「日韓国交正常化50周年の節目となるこの年に協定が締結でき、感無量です。日韓両国のおかげとなるような協定としていきいたい」と述べた。

朴煥善（パク・ファンソン）総領事は「今回の協定は誠に意義

深い。フィギュアスケートで活躍した浅田真央選手や安藤美姫選手などを輩出した梅村学園と公式に協定を締結できてうれしく思う。梅村学園の各学校のグローバル化に微力ながら貢献したい」と抱負を述べた。

安村仁志学長は「研究・学生交流などの分野で協力していきたい」と、協定を契機とした研究・教育面での交流に期待感を示した。禹炳旭（ウ・ビョンウク）領事は「この協定を通じて日韓両国の活性化が進むことを望んでいる」と答えた。

今後、領事館による日韓相互理解のための講演会、国際的な視野に立つて働くことのできる学生の人材育成、交流協定校の支援など梅村学園と領事館が共同で教育的交流事業を行っていく。

学校法人梅村学園および駐名古屋大韓民国総領事館に於けるグローバル教育支援に関する協定書調印



協定に調印後、握手する梅村理事長（左）と朴総領事

梅村学園 韓国の地山学園



調印式に臨んだ（左から4人目から）南校長、金理事、梅村理事長、安村学長、伊神理事、大竹校長

校長が署名した。

署名に先立ち梅村理事長は、漢西高校の生徒約250人の前で「若い世代の国際交流こそが大切だ。今、通訳をしている趙さんも中京大学の卒業生で、日本の架け橋となる仕事をしてきている」と語り、本学のある名古屋、豊田についてトヨタ自動車

学校法人梅村学園は韓国で漢西高等学校を運営する地山学園との間で学術の協力と交流に関する連携協定を締結することとなり、4月27日、ソウル市内の漢西高校で調印式があった。

協定の内容は、学生や教職員との交流、漢西高校から梅村学園中京大学への留学生入試特別枠による学生の受け入れ、教育および研究に関する各種学術情報や資料の交換など。

調印では、梅村学園の梅村清英理事長と地山学園の金在千理事長、中京大学の安村仁志学長、中京大学附属中京高等学校の大竹有二校長、漢西高校の南相一

などを例にモノづくりの盛んな地域と紹介した。

安村学長は、ロシア語での自己紹介のあと、日本語の「培う」という語について「これは畑を耕し、種をまいて、それを育てていくという意味です」と説明、「今、種がまかれました。みなさんは日本への留学や訪問を通じて、その種を育て大きく咲かせてほしい」と期待を込めた。

このたびの学園間の協定締結は、梅村学園の伊神勝彦理事が附属中京高校校長の任にあった数年前から漢西高校との交流を重ねてきており、こうした実績の上に実現した。

中京
大学

イタリア ヴェネツィア大学

留学・共同研究など学術交流

本学は、イタリアのヴェネツィア大学と学術協力交流に関する協定に5月14日、ヴェネツィア大学で調印した。①学生流動化(留学生交換)②共同プログラム③知識の移転(セミナーや講演会)④共同研究の4つの柱からなっており、実現していくための責任者として教員を両大学に置く。

調印は、本学を擁する梅村学園の梅村清英理事長が、本学の

安村仁志学長署名の協定書を持参し、これにヴェネツィア大学のミケーレ・ブリエージ学長が署名する形で行われた。招聘を受けた梅村利恵中京大学同窓会理事(梅村理事長夫人)、檜山幸夫・法学部教授(社会科学研究所所長)、湯上良・社会科学研究所

特任研究員らが同席した。梅村理事長は、ブリエージ学長に、①今後、中京大学をイタリア研究に関する日本国内の拠点

大学としていきたい②本学におけるイタリア語学習の機会を検討し、留学の可能性の拡大につなげていきたい③両大学でこれまでにない全く新しい分野での共同研究を開発していきたい④両

大学大学院でこれまでにとは異なる分野におけるジョイント・デイ



梅村理事長(左)と協定書に署名をするブリエージ学長

グリー(双方で学位記授与)も開発したいと、両大学の学術協力交流に大きな期待を示した。

今回の協定締結は、ヴェネツィア大学の学生を2014年度から交換留学生として本学で

経済学部2年の田中選手 ミニマム級世界王者 学生、教職員が応援



報告会で応援に感謝する田中選手

経済学部2年のプロボクサー田中恒成選手(畑中ジム)は、5月30日にパークアリーナ小牧(愛知県小牧市)で行われたWBO世界ミニマム級世界王座決定戦で、フリーアン・イエドラス選手(メキシコ)に12回判定勝ちした。日本最速プロ5戦目で世界王者という快挙となった。

試合当日は、梅村清英理事長、安村仁志学長をはじめ教職員、学生計115人が大型バス2台

受け入れている実績に加え、檜山教授が中心となって現地で大を中心としたアーカイブズの調査・研究を重ねてきたことや、社会科学研究所が同大の教授陣を本学に招いて講演会を開催するなど研究交流を重ねてきたことから実現した。デジタル媒体

などで試合会場に駆けつけた。名古屋キャンパス清明ホールでは約230人が大型スクリーンで観戦。田中選手が優勢に試合を進めると、スティックバルーンを打ち鳴らしながら、声援を送った。

6月19日には、田中選手の王座獲得報告会が、昼休みの名古屋キャンパスガレリアで開かれた。田中選手はチャンピオンベルトを披露し、学生、教職員の応援に感謝した。

による文化資源の分析や構築を行うデジタル・ヒューマニティーズ分野での共同研究については、すでに数々の準備が進められている。中京大学社会科学研究所と人工知能高等研究所が中心となり、本協定による、さらなる発展が期待されている。

中日新聞の寄付講座 文、経済学部生受講

中日新聞社の記者が学生たちに教える寄付講座「報道の現場から」が春学期に行われた。中日新聞社が大学で寄付講座を開設するのは初めて。

寄付講座は、専門科目の特殊講義Ⅲとして15回開講し、文学部言語表現学科と経済学部の計272人が受講した。編集局の記者やデスクが、「特ダネを追って」「政治家との距離」「大震災の現場で」「スポーツ取材の光と影」などのテーマで講義。情報収集、人脈づくり、真実の見極め、文章作成などのスキルとともに、報道の最前線を紹介した。

寄付講座に係る調印式が4月8日に行われ、梅村清英理事長は「学園創立者の梅村清光先生が中日新聞前身の新愛知新聞で教育担当記者として働いて以来の縁。一世紀を経て寄付講座として結実した」と述べた。

実世界で役立つ人工知能技術競う
本学、中部大学、三菱電機の合同チーム

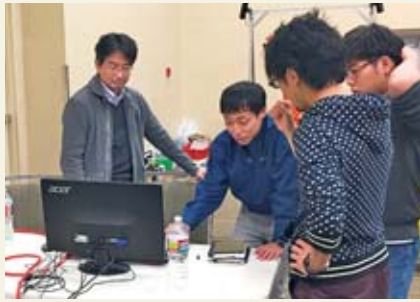
知能ロボットの
国際大会で6位



大会本番で商品を判別する合同チームの知能ロボット

知能ロボットの国際大会「アマゾンピッキングチャレンジ」が5月26―28日に米・シアトルで初めて開催され、本学、中部大学、三菱電機先端技術総合研究所の合同チームが、日本勢最高の6位と健闘した。

物流の自動化技術を競うため、アマゾン・ドット・コムとICRA（米国電気電子学会主催の国際会議）が主催。マサチューセッツ工科大学をはじめ、ロボット分野で世界をリードする大学を中心に30カ国32チームが参加した。日本からは東京大学チームと本学などの2チームが出場し、ロボットアームで棚から本や菓子などの商品を取り出す精度や速さを競った。



ロボットを調整する橋本教授(左)ら

本学からは工学部の橋本教授と、橋本研究室の秋月秀一さん（情報科学研究科博士課程2年）が出場。現場での調整が不十分となり、想定した性能を発揮できなかったが、商品の認識するロボット視覚として、独自の3次元物体認識技術（ベクトルペアマッチング）を披露した。橋本教授は「実世界で役立つロボットの産業競争力強化につながるよう、研究・開発を進めたい」と話している。

図書館の貴重書15

奈良絵本『ひめゆり』下

(貴133)

本書は、中世末期成立のお伽草子『ひめゆり』を横型の小振りな奈良絵本に仕立てたものである。制作年次は、挿絵の類型化した画風や淡白な色彩から鑑みて、また料紙に間似合紙が用いられていること等から、近世中期にまで下るものと思われる。残念ながら二冊の内の上冊を失っているが、紺地に金泥で草花の模様を描き金箔を散らした制作当時の豪華な表紙が、中央に貼られた朱色の題簽と共に状態良く残っている。また本文の料紙の上方に、均等に文字・行が配さ



は、主人公の姫百合と黄菊少将とが、互いの乳母から『伊勢物語』等古典文学や中世の有名な説話等の故事を踏まえた様々な助言を受けながら、また草の大王の横恋慕にも負けずに恋を成就するというもの。登場する者が全て植物の名前になっている。『異類擬人物』の作品である。本書の本文は、『ひめゆり』の他伝本に比べて略述的な傾向が強く、また末尾に祝言性が濃い等の特徴があり、注目される。

(文学部教授 徳竹由明)

7氏に名誉教授の称号

● 本学園理事会は、中京大学を今春退職した元教授7氏に4月1日付で名誉教授の称号を授与した。本学の名誉教授称号授与者は計135人。称号を授与されたのは次の皆さん(カッコ内は退職時の所属学部等)。

- ▼ 森下 純昭氏 (文学部)
- ▼ 石川 一三夫氏 (法学部)
- ▼ 平川 宗信氏 (法学部)
- ▼ 奥野 信宏氏 (総合政策学部)
- ▼ 秦野 甯世氏 (情報理工学部)
- ▼ 林 邦夫氏 (スポーツ科学部)
- ▼ 中川 武夫氏 (スポーツ科学部)

著書紹介

学び合い、高め合う高校生
一斉授業だけで学力向上はあるのだろうか

協同教育実践資料22

杉江 修治
(国際教養学部教授) 監修

近年、高校の授業改善の動きは著しい。本書は教師集団の中から湧き出た力で実践研究を進めている呂久高校の最近2年間の取り組みを報告したものである。一人ひとりの教師が納得しながらの挑戦は、地道で力強いものとなっている。

一粒書房。2015年3月20日刊。85頁。

本体1,500円+税



●橋本学教授(工学部)らがSSIIオーディエンス賞



(左から)橋本教授、秋月さん、武井さん

3次元ロボット視覚
高速で対象物を検知

6月11日に開催された画像センシングシンポジウム(SSII)で、橋本学教授、秋月秀一さん(情報科学研究科博士課程2年)、武井翔一さん(同修士課程2年)の研究グループが「オーディエンス賞」を受賞した。

受賞技術は「3次元点群の空間的広がりに着目した高速キーポイント検出」。ロボットが家庭や工場で活躍するために不可欠な「感覚機能」に関する技術。人工知能による画像認識を行うことでロボットの眼を実現できる。独創性や性能優位性が評価された。

●吉野裕介准教授(経済学部)が経済学史学会研究奨励賞



経済思想の解釈から
現代的意義を主張

経済学部吉野裕介准教授の著書『ハイエクの経済思想…自由な社会の未来像』(勁草書房、2014年)は5月30日、第12回経済学史学会研究奨励賞を受賞した。

受賞作のテーマは20世紀の自由主義経済思想家フリードリッヒ・ハイエクの経済思想。スタンフォード大学フーバー研究所の資料調査をもとに、「自生的秩序」と「文化的進化」

の視点から新たなハイエク像として描いた。さらにこの解釈を展覧させ、「開かれた政府」「参加型社会」「知識の豊かさ」を重視する、次代の自由社会を構想している。吉野准教授は「学生たちに経済学史や経済思想史のおもしろさを伝えていきたい」と話している。

●大岡頼光准教授(現代社会学部)が福祉社会学学会学術賞



教育費負担に着目
誰もが進学できる社会を

現代社会学部大岡頼光准教授の著書『教育を家族だけに任せない…大学進学保障を保障の無償化から』(勁草書房、2014年)が、福祉社会学学会学術賞を受賞した。

大岡准教授は、少子高齢化が急激に進む日本を支えていくには、どの家庭の子どもも希望すれば大学に進学できる社会をつくる必要があると主張している。家族の教育費負

担を当たり前とする「家族主義」のままでは、稼ぎ手の親が倒れると大学進学が極端に難しくなる。受賞作は、「家族主義」を変え、家庭環境が激変しても子どもが自分の可能性を最大限に伸ばせる社会、「教育を家族だけに任せない」日本社会を構想している。

2015年度 科学研究費助成事業
新規17件、継続分50件
総額1億3,319万円

2015年度「科学研究費助成事業」に本学から新規17件(学術研究助成基金助成金11件、科学研究費補助金6件)が採択され、継続分50件と合わせ総数が67件、配分される総金額は1億3,319万円となった。新規の応募64件に対して採択17件、採択率は26.6%だった。※2015年6月末現在

学術研究助成基金助成金(新規採択分)			
(単位:千円)			
所属・氏名	研究課題名	交付決定額	研究種目
現代社会学部教授 村上 隆	完全単純構造主成分分析とその個人差測定尺度構成への応用に関する計量心理学的研究	700	基礎研究(C)
現代社会学部准教授 大岡 頼光	保育・教育費負担の「脱家族化」は人口減対策になるか?日本の自治体と瑞仏の調査から	1,000	
工学部教授 沼田 宗敏	表面粗さ用ローパスフィルタの振幅伝達特性と位相補償特性の計算方法開発	1,600	
特別研究員(PD) 池田 功毅	感じの良い顔は注意を引くのか?:事象関連電位を用いた研究	2,100	
国際教養学部准教授 埴淵 知哉	「科学の縮図」としての地理学の分化と融合に関する科学計量学的分析	1,700	挑戦的萌芽研究
現代社会学部教授 亀山 俊朗	「55年体制」と日本型シティズンシップの形成:丹下健三・花田清輝・大西巨人	800	
法学部教授 古川 浩司	日本の国境警備論の構築	600	
工学部教授 目加田 慶人	大規模天体画像群の重なり領域に基づく時系列解析による変光星の検出	1,400	
スポーツ科学部教授 近藤 良享	エンハンスメントとしてのドーピング論の研究	900	

国際教養学部講師 三上 傑	素性継承システムのパラメータ化に基づくV2現象の共時的・通時的的研究	600	若手研究(B)
心理学部助教 宮崎 由樹	集団的メタ注意:チームの注意機能を把握し制御する能力の評価とその補正方法の確立	1,000	

科学研究費補助金(新規採択分)			
(単位:千円)			
所属・氏名	研究課題名	交付決定額	研究種目
現代社会学部教授 成 元哲	原発事故後の親子の生活・健康変化の実態解明と社会的亀裂修復に向けた介入研究	13,700	基礎研究(A)
スポーツ科学部教授 近藤 良享	非RTPの学生/選手におけるドーピング防止教育	2,200	基礎研究(B)
経済学部准教授 吉野 裕介	ハイエク思想の大衆化に関する研究:新自由主義はどのように「ネオリベ」となったか	1,200	若手研究(A)
国際教養学部教授 榎 正行	土着と近代 グローカルの大洋を行く英語圏文学	1,100	研究成果公開促進費(学術図書)
法学部教授 檜山 幸夫	台湾総督府文書目録データベース	3,900	研究成果公開促進費(研究成果データベース)
特別研究員(DC2) 堀 兼大朗	自閉症スペクトラム障害をめぐる差別的排除構造の社会的解明	900	特別研究員奨励費(国内)

※基礎研究(B)については、一部学術研究助成基金助成金を含む

学園の決算も同様に確定しましたので、その概要を説明します。
2014年度の消費収支計算書は**図表4**のとおりです。

消費収入の部では、帰属収入が194億2百万円で、予算を上回ることができました。そのうち学生生徒等納付金は163億42百万円で、帰属収入における構成比率は84.2%となっています。補助金は17億83百万円で、帰属収入に占める割合は9.2%です。また、寄付金は58百万円でした。

次に、基本金に組み入れた額は、施設設備整備に伴う第1号基本金組入等13億38百万円でした。その結果、2014年度の消費収入は180億64百万円となりました。

一方、消費支出の部は、総額180億70百万円で、予算内での執行となりました。消費支出のうち、人件費は98億73百万円、消費支出における構成比率は54.6%となっています。また、教育研究経費は59億45百万円で、消費支出に占める割合は32.9%となっています。なお、資産処分差額は主に施設設備の除却によるものです。

消費収入から消費支出を差し引いた結果は6百万円の支出超過となりました。

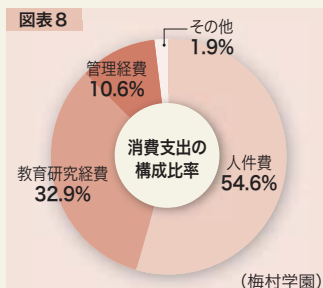
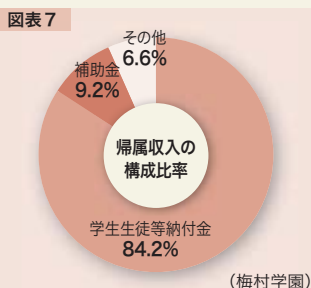
この消費収支計算書の帰属収入、消費支出の構成比率は**図表7**、**図表8**のとおりです。また、**図表9**は、消費収支計算書関係の財務比率の過去5年間の推移を示しています。

次に、資金収支計算書(**図表5**)の科目ですが、施設整備への支出は8億2百万円、機器備品・図書などへの支出は4億96百万円でした。

貸借対照表の概要は**図表6**のとおりです。資産総額は999億16百万円で、前年度に比べ0.5%減少しています。一方、負債の総額は172億75百万円で、前年度に比べ9.8%減少しました。また、基本金と消費収支差額を合わせた額は826億41百万円で、前年度に比べ1.6%増加しました。主な貸借対照表の過去5年間の関係比率は**図表10**のとおりです。

なお、中京大学および梅村学園の消費収支計算書および資金収支計算書の予算額については予備費振替後のものです。

(財務部)



経費②教職員の福利厚生のための経費③教育研究活動以外に使用する施設、設備の修繕、維持、保全に要する経費④学生募集のために要する経費⑤補助活動事業のうち食堂、売店のために要する経費等に該当することが明らかな経費が管理経費とされます。それ以外の経費については、主たる用途に従って教育研究経費か管理経費のいずれかに含めま

す。光熱水費等のように双方に関連するものは校舎面積等で按分しています。

「基本金」

基本金とは、学校法人が教育・研究等諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして、帰属収入の中から組み入れた金額をいいます。

図表4 2014年度 梅村学園消費収支計算書 (単位：千円)

消費収入の部			消費支出の部		
科目	予算額	決算額	科目	予算額	決算額
学生生徒等納付金	16,274,752	16,341,933	人件費	9,957,707	9,872,658
手数料	425,509	492,960	教育研究経費	6,225,386	5,944,550
寄付金	13,329	57,745	管理経費	2,022,006	1,915,574
補助金	1,754,458	1,782,823	借入金等利息	68,501	68,498
資産運用収入	130,281	142,819	資産処分差額	276,065	268,737
資産売却差額	264,621	264,622	予備費	44,362	—
事業収入	247,657	246,489	消費支出の部合計	18,594,027	18,070,017
雑収入	73,869	72,748	当年度消費支出超過額	893,128	5,665
帰属収入合計	19,184,476	19,402,139			
基本金組入額合計	△1,483,577	△1,337,787			
消費収入の部合計	17,700,899	18,064,352			

図表5 2014年度 梅村学園資金収支計算書 (単位：千円)

収入の部			支出の部		
科目	予算額	決算額	科目	予算額	決算額
学生生徒等納付金収入	16,274,752	16,341,933	人件費支出	10,265,913	10,188,594
手数料収入	425,509	492,960	教育研究経費支出	4,447,651	4,165,075
寄付金収入	12,110	12,615	管理経費支出	1,721,476	1,615,047
補助金収入	1,754,458	1,782,823	借入金等利息支出	68,501	68,498
資産運用収入	130,281	142,819	借入金等返済支出	962,546	962,451
資産売却収入	298,810	293,010	施設関係支出	816,347	802,360
事業収入	247,657	246,489	設備関係支出	638,728	496,148
雑収入	182,764	183,524	資産運用支出	1,065,030	1,065,018
前受金収入	2,771,813	2,745,517	その他の支出	1,692,778	1,724,246
その他の収入	886,023	897,138	予備費	53,870	—
資金収入調整勘定	△3,105,151	△3,153,000	資金支出調整勘定	△879,016	△1,144,804
前年度繰越支払資金	13,224,827	13,224,827	次年度繰越支払資金	12,250,029	13,268,022
収入の部合計	33,103,853	33,210,655	支出の部合計	33,103,853	33,210,655

図表6 2014年度 梅村学園貸借対照表 (単位：千円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	86,297,423	固定負債	11,888,810
有形固定資産	68,607,193	長期借入金	5,929,123
土地	15,231,710	退職給付引当金	5,959,687
建物	38,086,843	流動負債	5,385,963
構築物	3,439,348	短期借入金	914,879
教育研究用機器備品	1,641,290	未払金	1,118,363
その他の機器備品	230,287	前受金	2,745,517
図書	9,416,474	預り金	607,204
車両	28,402	負債の部合計	17,274,773
建設仮勘定	532,839		
その他の固定資産	17,690,230		
ソフトウェア	87,658		
有価証券	53,100		
長期貸付金	82,481		
長期前払金	272,785		
退職給付引当特定資産	5,610,440		
減価償却引当特定資産	5,385,000		
奨学資金特定資産	2,970,000		
将来計画準備引当特定資産	3,086,120		
第3号基本金引当資産	70,441		
その他固定資産	72,205		
流動資産	13,618,493		
現金預金	13,268,022		
未収入金	284,954		
仮払金	36,031		
前払金	29,486		
資産の部合計	99,915,916		

基本金の部	
科目	金額
第1号基本金	90,422,139
第3号基本金	70,441
第4号基本金	1,405,000
基本金の部合計	91,897,580

消費収支差額の部	
科目	金額
翌年度繰越消費支出超過額	9,256,437
消費収支差額の部合計	△9,256,437

負債の部、基本金の部および消費収支差額の部合計	
科目	金額
	99,915,916

図表9 梅村学園消費収支計算書関係比率 (単位：%)

評価	算式	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
学生生徒等納付金比率	△ 納付金/帰属収入	82.8	86.3	86.1	85.6	84.2
補助金比率	△ 補助金/帰属収入	7.3	8.1	8.4	9.0	9.2
人件費比率	▼ 人件費/帰属収入	72.5	51.0	55.0	52.2	50.9
教育研究経費比率	△ 教育研究経費/帰属収入	29.8	30.9	28.8	32.2	30.6
帰属収支差額比率	△ (帰属収入-消費支出)/帰属収入	-15.2	4.6	5.8	0.7	6.9

図表10 梅村学園貸借対照表関係比率 (単位：%)

評価	算式	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
固定比率	▼ 固定資産/自己資金	95.1	94.3	110.3	106.7	104.4
固定長期適合率	▼ 固定資産/自己資金+固定負債	86.4	86.0	93.8	92.0	91.3
流動比率	△ 流動資産/流動負債	338.1	372.4	176.2	222.7	252.9
総負債比率	▼ 総負債/総資産	14.0	13.2	21.3	19.1	17.3
自己資金構成比率	△ 自己資金/総資産	86.0	86.8	78.7	80.9	82.7

(注) △高い値が良い ▼低い値が良い と言われています
自己資金=基本金+消費収支差額

先般、中京大学の2014年度決算が確定しました。各計算書については図表1および図表2のとおりですが、消費収支計算書の決算数字を中心としてその概要を説明します。

●消費収支計算書(図表1)

1. 学生生徒等納付金:146億39百万円で前年度に比べて70百万円減少しました。帰属収入に対する構成比率は90.2%となっています。構成割合は収入の各科目間の相対的なものでもあり、他の収入科目の増減によっても左右されますが、この構成比率は高い水準が続いています。なお、2014年5月1日現在の学部・大学院の学生総数は13,128人でした。

2. 手数料:このうち97.2%が入学検定料です。入学検定料収入は4億12百万円、前年度に比べて5百万円の増加となりました。また、帰属収入に対する構成比率は2.6%となっています。2015年度入試の志願者は33,021人でした。

3. 寄付金:特別寄付金が11百万円、現物寄付金が43百万円でした。帰属収入に対する構成比率は0.3%となっています。

4. 補助金:帰属収入に占める割合は4.2%となっています。経常費補助金は6億75百万円で前年度に比べて46百万円の増加となりました。また、経常的経費に対する割合は5.5%でした。

5. 資産運用収入:前年度に比べ6百万円、4.6%の増加となりました。帰属収入に対する割合は0.8%です。うち、受取利息収入の割合は46.3%です。

6. 事業収入:受託事業およびオープンカレッジ等受講料の収入です。前年度に比べて27百万円の増加となりました。

7. 帰属収入:収入の合計は162億21百万円であり、対前年度比38百万円、0.2%の減少となりました。

8. 人件費:77億69百万円で、対前年度比1.1%の減少となりました。帰属収入に対する人件費比率は47.9%、消費支出における構成比率は52.7%です。2014年5月1日現在の専任教員は321人、専任職員は189人でした。

9. 教育研究経費:52億48百万円で、対前年度比4.3%の減少となりました。また、消費支出における構成比率は35.6%でした。このうち減価償却費は14億87百万円、教育研究経費に占める割合は28.3%でした。

10. 管理経費:15億55百万円で、対前年度比7.8%の増加となりました。その消費支出における構成比率は10.6%でした。

11. 借入金等利息:65百万円で、前年度に比べて7百万円の減少となりました。

12. 消費収入・消費支出:基本金組入額は11億59百万円で、前年度より35億44百万円減少しました。帰属収入から基本金組入額を控除した消費収入は150億62百万円となりました。一方、消費支出は147億30百万円で、対前年度比1.6%の減少となりました。その結果、消費収入から消費支出を差し引いた消費収支差額は3億33百万円の収入超過です。

●資金収支計算書(図表2)

各科目については消費収支計算書の中で概要を説明していますので、ここでは資金収支計算書の特有な科目のうち主なもの

図表1 2014年度 中京大学消費収支計算書(単位:千円)

消費収入の部			消費支出の部		
科目	予算額	決算額	科目	予算額	決算額
学生生徒等納付金	14,570,918	14,638,715	人件費	7,840,501	7,768,536
手数料	356,696	424,082	教育研究経費	5,507,669	5,248,428
寄付金	10,300	53,337	管理経費	1,640,305	1,554,901
補助金	676,291	678,254	借入金等利息	64,603	64,603
資産運用収入	124,200	135,602	資産処分差額	100,360	93,056
事業収入	247,657	246,489	予備費	40,402	—
雑収入	48,000	44,825	消費支出の部合計	15,193,840	14,729,524
帰属収入合計	16,034,062	16,221,304	当年度消費支出超過額	475,702	△332,789
基本金組入額合計	△1,315,924	△1,158,991			
消費収入の部合計	14,718,138	15,062,313			

図表2 2014年度 中京大学資金収支計算書(単位:千円)

収入の部			支出の部		
科目	予算額	決算額	科目	予算額	決算額
学生生徒等納付金収入	14,570,918	14,638,715	人件費支出	8,026,171	7,959,387
手数料収入	356,696	424,082	教育研究経費支出	4,020,744	3,759,661
寄付金収入	10,300	10,600	管理経費支出	1,365,362	1,279,958
補助金収入	676,291	678,254	借入金等利息支出	64,603	64,603
資産運用収入	124,200	135,602	借入金等返済支出	742,110	742,110
資産売却収入	5,800	0	施設関係支出	767,020	753,039
事業収入	247,657	246,488	設備関係支出	613,799	474,271
雑収入	48,000	44,825	資産運用支出	1,050,030	1,050,018
前受金収入	2,458,378	2,422,012	その他の支出	1,788,217	1,799,073
その他の収入	972,505	997,344	予備費	50,000	—
資金収入調整勘定	△2,563,901	△2,605,562	資金支出調整勘定	△776,440	△1,025,018
前年度繰越支払資金	12,326,321	12,326,321	次年度繰越支払資金	11,521,549	12,461,579
収入の部合計	29,233,165	29,318,681	支出の部合計	29,233,165	29,318,681

について説明します。

1. 前受金収入:2015年度入学生の学生生徒等納付金は、春学期分が2015年3月末日までに納入されるため、2014年度の収入とします。

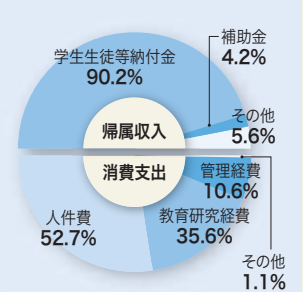
2. 資金収入調整勘定:期末未収入金と前期末前受金は、現金収受が前年度または翌年度以降行われ、2014年度には資金の流れが伴わないので控除されます。

3. 施設関係支出:建物・構築物等に対する支出で、名古屋キャンパス8・12号館の耐震工事をはじめとした校内整備工事等を行いました。

4. 設備関係支出:機器備品・図書等の取得のための支出です。教育研究用機器備品取得のうち主なものは、教室設備関係機器、情報・ネットワーク関係機器、体育関係機器備品等です。また、図書の2014年度末現在の蔵書数は約131万1千冊です。

5. 資金支出調整勘定:期末未払金と前期末前払金は現金支払が前年度または翌年度以降行われ、2014年度に資金の流れを伴わないので控除されます。

図表3 構成比率(中京大学)



【決算の用語説明】

「消費収支計算書」

消費収支計算書は、企業会計の損益計算書とは異なり、利益の多寡を明らかにする目的ではなく、当該年度の消費収入(帰属収入から基本金組入額を控除したもの)と消費支出の内容および均衡の状態を明らかにするために作成されます。

「資金収支計算書」

資金収支計算書は、当該会計年度の教育研究活動に対応するすべての資金の収入・支出の内容を明らかにし、かつ当該会計年度における支払資金のてん末を明らかにするものです。

「教育研究経費と管理経費」

学校事業に要する経費のうち、①総務・人事・経理、その他これに準ずる業務の

「すべてが今につながっている」

株式会社中日ドラゴンズ
チーム統括本部 編成部 国際渉外担当
兼 運営部 外国人担当
桂川 昇さん

5月25日のセ・パ交流戦、中日対ソフトバンクのヒーロー、ルナ選手がインタビューに答え、早口でまくしたてた。桂川さんは深くうなずくと、「今日は最初の打席でチャンス逃し、絶対打ってやろうと思っていました」と即座に伝えた。ルナ選手との信頼関係が的確な通訳につながっている。

「スペイン語と野球」にかかわる仕事を考えていたところ、地元企業の野球部がキューバ選手を獲得、人づてに通訳の仕事を得た。中日球団がその実績を知り、キューバの至宝リナレス選手を獲得した際に、通訳として採用された。

桂川さんは、選手がグラウンドで100%の力を出せるよう、心がけている。ピザ取得から住居、家族来日の手配など生活面も含め昼夜を問わずサポートする。選手と信頼関係を築くためだ。「選手が活躍して勝利に貢献した時は自分のことのようにうれしい」

オフシーズンにはコーチとももに中米に渡り、選手を発掘する。中日は他球団と違い、エージェント(代理人)を介さずに選手を探す。「百聞は一見にしかず」だ。現地では無名に近くても、来日して活躍した選手は何人もいる。球団に所属して13年、風邪等で休んだことは一度もない。

学生時代は、準硬式野球部に所属し、「全国から集まった仲間と汗を流し、語らった日々は貴重でした」。早朝練習で規則正しい生活が身についた。体育学を学んだことも役立っている。海外経験も含め、「やってきたことが全て(今の仕事に)つながっている」。

大学卒業後、ヘルスケアトレーナーとして働き始めたが、人を指導する難しさを感じた。「苦労するところで自分を磨きたい」と、海外青年協力隊に応募、中米ニカラグアで2年間子ども



●岐阜市出身。1989年中京大学体育学部卒。岐阜県労働基準協会連合会勤務、青年海外協力隊を経て、昭和コンクリート・シダックス硬式野球部で通訳として活躍。2003年から現職。(写真㊤:中日ドラゴンズ提供)

表3 2015年度 梅村学園 資金収支予算書 (単位:千円)

収入の部			支出の部		
科目	2015年度予算	2014年度予算	科目	2015年度予算	2014年度予算
学生生徒等納付金収入	15,998,901	16,274,752	人件費支出	9,901,514	10,265,913
手数料収入	461,379	425,509	教育研究経費支出	4,094,037	4,447,361
寄付金収入	1,825	12,110	管理経費支出	1,342,630	1,721,476
補助金収入	1,714,876	1,754,458	借入金等利息支出	60,240	68,501
資産売却収入	0	298,810	借入金等返済支出	914,886	962,546
付随事業・収益事業収入	187,047	247,657	施設関係支出	2,160,000	816,007
受取利息・配当金収入	59,321	64,311	設備関係支出	531,311	638,728
雑収入	313,698	248,734	資産運用支出	1,050,030	1,065,030
借入金等収入	0	0	その他の支出	955,504	1,692,778
前受金収入	2,672,917	2,771,813	予備費	55,500	54,500
その他の収入	652,105	886,023	資金支出調整勘定	△582,929	△879,016
資金収入調整勘定	△2,976,363	△3,105,151	翌年度繰越支払資金	10,853,012	12,250,029
前年度繰越支払資金	12,250,029	13,224,827	支出の部合計	31,335,735	33,103,853
収入の部合計	31,335,735	33,103,853			

表4 2015年度 梅村学園 事業活動収支予算書 (単位:千円)

科目		2015年度予算	2014年度予算
教育活動収支	学生生徒等納付金	15,998,901	16,274,752
	手数料	461,379	425,509
	寄付金	2,225	13,329
	経常費等補助金	1,704,017	1,754,458
	付随事業収入	187,047	247,657
	雑収入	124,570	139,839
	教育活動収入 計	18,478,139	18,855,544
	人件費	9,814,523	9,957,707
	教育研究経費	5,851,368	6,225,096
	管理経費	1,642,538	2,021,806
徴収不能額等	0	0	
教育活動支出 計	17,308,429	18,204,609	
教育活動収支差額	1,169,710	650,935	
教育活動外収支	受取利息・配当金	59,321	64,311
	その他の教育活動外収入	0	0
	教育活動外収入 計	59,321	64,311
	借入金等利息	60,240	68,501
	その他の教育活動外支出	0	0
教育活動外支出 計	60,240	68,501	
教育活動外収支差額	△919	△4,190	
経常収支差額	1,168,791	646,745	
特別収支	資産売却差額	0	264,621
	その他の特別収入	11,659	0
	特別収入 計	11,659	264,621
	資産処分差額	54,250	271,215
	その他の特別支出	0	0
	特別支出 計	54,250	271,215
	特別収支差額	△42,591	△6,594
	[予備費]	55,500	49,702
	基本金組入前当年度収支差額	1,070,700	590,449
	基本金組入額合計	△3,173,256	△1,483,577
当年度収支差額	△2,102,556	△893,128	
(参考)			
事業活動収入計	18,549,119	19,184,476	
事業活動支出計	17,478,419	18,594,027	

先般の学園評議員会および理事会におきまして、中京大学の2015年度予算が決定されましたので、概要を説明します。資金収支予算書は表1、事業活動収支予算書は表2のとおりです。

●資金収支予算書(表1)

〈収入の部〉

1. **学生生徒等納付金収入**:143億12百万円を計上しました。予算学生数の見込みにより、2014年度予算に比べ1.8%の減少となりました。

2. **手数料収入**:3億95百万円を計上しました。ほとんどが入学検定料です。

3. **補助金収入**:6億33百万円を計上しました。国庫からの補助金が主なものです。

4. **付随事業・収益事業収入**:オープンカレッジ、資格対策講座の受講料等の公開講座収入が含まれます。

5. **受取利息・配当金収入**:受取利息等の収入で、59百万円を見込みました。

〈支出の部〉

1. **人件費支出**:75億71百万円を計上しました。

2. **経費支出**:教育関連経費、研究費、学生募集経費など、教育研究経費と管理経費で構成されています。あわせて48億44百万円で、前年度予算と比べ10.1%の減少です。

3. **施設関係支出**:名古屋キャンパス0号館空調工事、豊田キャンパス6号館建築工事、その他校内整備などの事業費として19億80百万円を計上しました。

4. **設備関係支出**:教室設備、情報機器、図書費などの支出として5億円を計上しました。

●事業活動収支予算書(表2)

1. **事業活動収入**:156億92百万円を計上。2014年度予算と比べ2.1%の減少となっています。

2. **基本金組入額**:組入額として29億13百万円を計上。前年度予算と比べ15億98百万円増加しました。

3. **当年度収支差額**:事業活動収入は事業活動支出を上回っていますが、基本金組入額が大きく、結果として基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額を控除した当年度収支差額は、16億83百万円の支出超過が見込まれています。

梅村学園の予算も同様に決定されました。その資金収支予算書は表3、事業活動収支予算書は表4のとおりです。

事業活動収支予算では、事業活動収入として185億49百万円を計上しました。2014年度予算と比べ3.3%減少しています。学生生徒等納付金は、159億99百万円を計上しました。各学校の学生生徒園児数の見込みにより、前年度予算と比べ1.7%減少しています。また、経常費等補助金は、国庫からの補助金と地方公共団体からの補助金とをあわせ前年度予算とほぼ同額の17億4百万円を計上しました。

事業活動支出の予算額は174億78百万円で、同6.0%の減少です。人件費は98億15百万円を計上しました。前年度予算と比べ

表1 2015年度 中京大学 資金収支予算書 (単位:千円)

収入の部		支出の部			
科目	2015年度予算	2014年度予算	科目	2015年度予算	2014年度予算
学生生徒等納付金収入	14,311,785	14,570,918	人件費支出	7,570,527	8,026,171
手数料収入	395,074	356,696	教育研究経費支出	3,699,538	4,020,744
寄付金収入	0	10,300	管理経費支出	1,144,201	1,365,362
補助金収入	633,452	676,291	借入金等利息支出	58,328	64,603
資産売却収入	0	5,800	借入金等返済支出	742,110	742,110
付随事業・収益事業収入	187,047	247,657	施設関係支出	1,980,000	767,020
受取利息・配当金収入	59,200	64,200	設備関係支出	499,911	613,799
雑収入	105,000	108,000	資産運用支出	1,050,030	1,050,030
借入金等収入	0	0	その他の支出	1,095,202	1,847,689
前受金収入	2,374,567	2,458,378	予備費	50,000	50,000
その他の収入	506,000	972,505	資金支出調整勘定	△421,129	△775,743
資金収入調整勘定	△2,460,378	△2,503,731	翌年度繰越支払資金	10,164,579	11,521,549
前年度繰越支払資金	11,521,550	12,326,320	収入の部合計	27,633,297	29,293,334
収入の部合計	27,633,297	29,293,334	支出の部合計	27,633,297	29,293,334

表2 2015年度 中京大学 事業活動収支予算書 (単位:千円)

科目		2015年度予算	2014年度予算
教育活動収入	学生生徒等納付金	14,311,785	14,570,918
	手数料	395,074	356,696
	寄付金	0	10,300
	経常費等補助金	633,452	676,291
	付随事業収入	187,047	247,657
	雑収入	105,000	108,000
	教育活動収入 計	15,632,358	15,969,862
	人件費	7,708,645	7,840,501
	教育研究経費	5,175,758	5,507,669
	管理経費	1,418,171	1,640,305
徴収不能額等	0	0	
教育活動支出 計	14,302,574	14,988,475	
教育活動収支差額	1,329,784	981,387	
教育活動外収入	受取利息・配当金	59,200	64,200
	その他の教育活動外収入	0	0
	教育活動外収入 計	59,200	64,200
	借入金等利息	58,328	64,603
教育活動外支出	その他の教育活動外支出	0	0
	教育活動外支出 計	58,328	64,603
教育活動外収支差額	872	△403	
経常収支差額	1,330,656	980,984	
特別収入	資産売却差額	0	0
	その他の特別収入	0	0
	特別収入 計	0	0
	資産処分差額	50,000	95,560
	その他の特別支出	0	0
特別支出 計	50,000	95,560	
特別収支差額	△50,000	△95,560	
[予備費]	50,000	45,202	
基本金組入前当年度収支差額	1,230,656	840,222	
基本金組入額合計	△2,913,451	△1,315,924	
当年度収支差額	△1,682,795	△475,702	
(参考)			
事業活動収入計	15,691,558	16,034,062	
事業活動支出計	14,460,902	15,193,840	

1.4%の減少です。また、各学校の教育研究経費と管理経費をあわせて74億94百万円を計上しました。

経常収支差額と特別収支差額をあわせた基本金組入前当年度収支差額は10億70百万円を計上しました。基本金組入額は31億73百万円で前年度予算と比べ16億90百万円増加しました。したがって、当年度収支差額として21億3百万円の支出超過が見込まれていますが、事業活動収入は事業活動支出を上回っています。

次に、資金収支予算のうち、施設および設備整備事業費は26億91百万円を計上しました。中京大学、附属中京高等学校、三重高等学校での施設工事や設備整備等を行ない、その他図書等の充実を図ります。(財務部)

A方式

最もスタンダードな入試のA方式は、試験科目が3教科の3教科型となっている(スポーツ科学部は実技試験不要の2教科型で実施)。「A方式英語基準型」を新設した。成績上位者には奨学金を給付する。4日間の試験日を設けており、また同一日4学科(専攻)までの併願が可能。

M方式

3教科型、2教科型があり、全問マークシート方式で出題される。2教科型は得点の高い科目の配点が2倍に換算される。3教科型と2教科型の併願が可能で、また、各教科型とも最大4学科(専攻)まで併願できる。

得意科目重視型センタープラス方式

センター試験の2科目(必須1科目と高得点1科目、配点は各100点)に、本学独自の1科目(200点)を加える。国語重視型、英語重視型、数学重視型の3パターンから選択でき、得意科目を生かせる。同じ科目型での併願が4学科(専攻)までできる。

センター試験利用方式

3科目型、4科目型、5科目型を実施。いずれもセンター試験後に出願ができ、複数学科(専攻)の併願が可能。出願書類とセンター試験結果で合否判定する。

推薦・AO入試

推薦入試は、公募制の一般推薦、一芸一能の特Ⅰ、指定校推薦の特Ⅱ、専門高校特別推薦の特Ⅲの4種類がある。AO入試は学部により出願資格が異なる。



新設「A方式英語基準型」について

❖ 英語の点数が100点満点に ❖

実用英語技能検定(英検)準1級以上、GTEC CBT1,000点以上、TOEFL® iBT57点以上、IELTS4.0以上、TEAP226点以上、TOEIC® 790点以上の資格を有していれば、英語の点数を満点の100点として判定する。

❖ 10学部で実施 ❖

国際教養学部、文学部、心理学部、法学部、経済学部、経営学部、総合政策学部、現代社会学部、工学部、スポーツ科学部

見学会で魅力説明 進学相談会全国で開催

高校生などの受験生、保護者、教員などに中京大学の教育内容、学習環境、学生支援の内容などを知っていただく機会として入試センターは大学見学会や進学相談会、高校での出前講義などの活動を行っている。

見学会には7月中旬までに24校が参加、高校生や保護者1,175人が本学を訪れた。入試センターではスライドや学内見学で本学の魅力を説明。また進学相談会も4月下旬からスタート。12月下旬まで北海道から九州まで全国で実施する。



今後の進学相談会の日程・会場

開催日時	開催地	会場
8/28 金 15:00~18:00	北海道 札幌市	札幌パークホテル
8/30 日 10:00~16:00	岐阜県 岐阜市	じゅうろくプラザ
9/6 日 10:00~16:00	静岡県 浜松市	アクトシティ浜松
9/11 金 15:00~18:30	長野県 松本市	ホテルブエナビスタ
9/12 土 11:00~17:00	三重県 四日市市	じばさん三重
9/13 日 10:00~16:00	愛知県 豊橋市	穂の国とよはし芸術劇場PLAT
9/15 火 15:00~18:30	富山県 富山市	ANAクラウンプラザホテル富山
9/16 水 15:30~19:00	石川県 金沢市	金沢駅もてなしドーム
9/16 水 16:00~18:30	広島県 広島市	基町クレド
9/17 木 15:30~19:00	福井県 福井市	フェニックス・プラザ
9/18 金 15:00~18:30	福岡県 福岡市	ソラリア西鉄ホテル
9/26 土 11:00~17:00		
9/27 日 10:00~16:00	愛知県 名古屋市	ウインクあいち
10/12 月 10:00~15:00		

2016年度 入試日程 決まる

中京大学の2016年度入試日程が決まった。AO(アドミッション・オフィス)入試が10月に、推薦入試が11月中旬からスタートする。前期日程入試は2月1、4—8日、後期日程入試は3月7日に実施する。

また、A方式に英語基準型を新設した。詳細は右の通り。

試験区分別の特徴は次の通り。教科・科目や出題範囲、配点、併願の可否、試験会場など、各入試区分、方式により異なるので、詳細は「入試要項」を参照。2016年度入試も前期日程、後期日程入試の出願は、インターネットのみの受付となる。

2016年度 学部入試日程

試験区分	実施学部	出願期間			試験日	合格発表日	
		郵送(消印有効)	窓口受付日	ネット出願			
学園内 高校選抜	附属校[特進]	全学部	1月21日(金)・22日(土)	実施せず	実施せず	個別試験は課さない	2月17日(金)
	附属校[進学]		11月2日(日)~11月6日(木)			11月21日(土)	11月28日(土)
	併設校						
AO入試	国際英語・国際教養	9月8日(金)~9月16日(木)	9月17日(金)	実施せず	一次 書類審査 二次 10月10日(土)	一次 10月3日(土) 二次 10月16日(金)	
	スポーツ科	10月19日(日)~10月30日(金)	11月2日(日)		11月28日(土)	12月2日(金)	
推薦入試	一般	全学部 ※スポーツ教育・競技スポーツ科学科以外	10月19日(日)~11月6日(金)	11月9日(日)	実施せず	11月21日(土)	11月28日(土)
	一般(実技型)	スポーツ科 (スポーツ教育・競技スポーツ科学科)				11月28日(土)	12月2日(金)
	特I	文・国際英語・国際教養・ 現代社会・法	10月19日(日)~10月30日(金)	11月2日(日)		11月21日(土)	11月28日(土)
	特II	総合政策・経済・経営・工				11月14日(土)	
	特III	全学部 ※競技スポーツ科学科以外 経済・経営・総合政策・工				11月21日(土)	
前期日程入試	A方式	全学部	実施せず	実施せず	1月7日(金) ~1月22日(金)	2月4日(金) 2月5日(土) 2月6日(日) 2月8日(月)	2月17日(金)
	M方式				1月7日(金) ~1月15日(金)	2月1日(日)	
	得意科目重視型CP方式				1月7日(金) ~1月22日(金)	2月7日(日)	
	センター試験利用方式 3科目型				1月7日(金) ~1月22日(金)	個別試験は課さない	
	センター試験利用方式 4科目型/5科目型				1月7日(金) ~2月2日(日)		
	後期日程入試	F方式			全学部	2月17日(金) ~2月26日(金)	3月7日(日)
センター試験利用方式		2月17日(金) ~3月10日(日)	個別試験は課さない				
前期特別入試	留学生	全学部	9月8日(金)~9月23日(木)	9月24日(金)	実施せず	10月17日(土)	10月23日(金)
	社会人	全学部 ※国際教養・法除く				※国際英語・国際教養のみ 10月10日(土)	※国際英語・国際教養のみ 10月16日(金)
	帰国生徒	全学部					
後期特別入試	留学生	全学部	1月7日(金)~1月14日(木)	1月15日(金)	実施せず	2月7日(日)	2月17日(金)
	帰国生徒	※文・機械システム工学科・スポーツ科除く					
編入・転入・学部(学科)変更試験	全学部 ※言語表現学科・国際英語・国際教養・ 現代社会学科国際文化専攻・工除く	9月8日(金)~9月23日(木)	9月24日(金)	実施せず	10月17日(土)	10月23日(金)	

※窓口受付時間、ネット出願締切日の受付時間は16:00まで。

入試に関する詳細は、入試要項を参照してください。 お問い合わせ先 **中京大学入試センター** TEL.052-835-7170・7173 (直)



④愛知万博に出演した、レーザーでエビせんべいに似顔絵を描くロボット
⑤万博時のロボットアームを使用し、筆ペンで色紙に似顔絵を描くロボット



名古屋市科学館との連携講座

タブレットで風をあやつろう!

—大学教授と学ぶものづくり—

◎日時

9月12日(土) 13:00~17:00

◎会場

名古屋市科学館 第1実験室

今年で3回目を迎える、市民向け連携講座「最高の科学技術を子どもたちに!—大学教授と学ぶものづくり—」シリーズ。

工学部の中貴俊講師、山田雅之教授らと電子工作で回路を組み、扇風機を作る。Androidタブレットを使い、電気の使用状況や発電状況を確認したり、命令を送って風の強さやリズムを操ることができる。小学生と保護者が対象。要申し込み。詳細はホームページ参照。<http://www.iasai.sist.chukyo-u.ac.jp/ncsm-school/>



車の部品のキズ検知や自然災害時に救助活動を行う小型レスキューロボットなど、産学共同で技術開発に取り組む人工知能高等研究所。研究分野は、①歩行ロボットや材料研究を行う機械システム工学②発電や人工衛星などの電気電子工学③画像処理やアプリケーション開発などの情報工学④CGやデジタルサウンドをはじめとするメディア工学、の4つ。広く工学分野にまたがる成果や技術は工学部4学科の研究に引き継がれ、若手研究者の育成にも繋がっている。

名古屋市科学館とともに小学生向け連携講座や、本学の公開講座「ソフトサイエンスシリーズ」を主催。生涯学習の場として、研究成果やものづくりを学ぶ楽しさを市民と共有している。

に、手紙同士を関連づけ、人物や用語の繋がりを調べるためのシステムを開発している。

伊藤研究室のゼミ生たちも、プログラムの設計や読み解いた手紙の電子化に協力している。伊藤教授が学生たちと試作したシステムは、キーワードや「組織」「人名」といったカテゴリを組み合わせてデータベースの検索が可能だ。システムを利用して、複数の手紙から地名のみを抜き出すと、開催地の“東京”に関連して1940年に冬季五輪開催を予定していた“札幌”が線で結ばれて表示された。ほかにも、往復書簡を時系列順に並べるシステムを制作。やりとりの回数や誰との手紙かなどを瞬時に分析できる。

システムが完成すれば、オリンピック開催決定過程の深層や、歴史上の新事実が発見できるかも知れない。伊藤教授は「史料には政治に関連する事柄や女子マラソン競技への見解などについても記され、時代や国・人物の関係性などの背景を知ることがとても興味深い。規則性や相関性を見つけ、新しい史実を知る手がかりになれば」と期待を込めている。



研究対象の五輪書簡「ブランデー・コレクション」



他研究所とコラボレーション

五輪や竹炭などテーマ研究の幅や深み広げる

人工知能高等研究所は本学の他の研究所とも、五輪史料のアーカイブ化やフィギュアスケート選手の演技自動認識システムの開発などの共同研究を行っている。社会科学研究所とは2013年度から微粒子吸着に優れた竹炭を開発し、放射性物質の除去に利用する「竹炭プロジェクト」を進める。2014年に竹炭入りの不織布袋が製品化された。

歴史上の新事実探せ

伊藤秀昭所員(工学部教授)が2013年度から本学の体育研究所と取り組むのは「五輪史料プロジェクト」。体育研究所が所有する、幻の1960年東京五輪にまつわるラトゥール第3代IOC委員長やマッカーサー連合国軍最高司令官らの書簡を含む「ブランデー・コレクション」をデータベース化。さら



実験・研究の機材が揃うMVRラボ

共同研究施設「MVRラボ」

産学共同を推進し 新しい技術を発信

産学連携のための共同研究施設「MVR (Machine Vision and Robotics) ラボ」。自然災害での救助活動を行うレスキューロボットの開発や、トヨタ自動車と共同で部品の欠陥を検知する技術が生まれている。学内においても、スポーツ科学部と実施している、風雨による体温調節への影響調査などを通じて、研究の場として実績を積んでいる。

部品のキズを自動検知

奥水大和研究所長(工学部教授)と青木公也所員(同)は、円筒形状をした自動車部品の内面にある微小なキズを自動検出する研究に携わっている。トヨタ自動車、豊田中央研究所との共同研究だ。成果をまとめた論文は2014年、画像処理分野で国内最大級の研究発表会VIEWの最優秀論文賞と、自動車技術会賞を受賞した。

従来、自動車用部品の製造品質確保は検査作業員が行ってきた。形状のズレやキズの有無などを、目視で判断する。奥水教授らの研究グループは、検査員の動きや視知覚を科学的に解析。人間が画像を見たとき、周囲と少し異なる領域に「気付き」機能を画像プログラムに実装した。検査をロボット化・自動化する技術を開発した。

開発されたシステムは、検査対象を選ばず、エンジンやブレーキ部分などあらゆる製品のキズ検出に応用できる。目視検査の完全自動化、効率化、精度向上に寄与するものとして、今後の発展が期待されている。日本の基幹産業であり、世界に誇る品質を持つ自動車。わずかなキズも見逃さない自動検査システムがその一端を担っている。

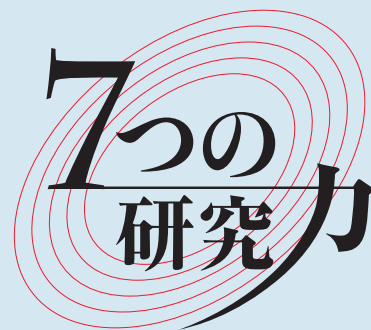
ロボットが似顔絵生成

カメラから入力される顔画像から似顔絵を描くロボットの開発に関わるのは船橋琢磨所員(工学部助教)。2005年に開かれた「愛・地球博」でプロトタイプのロボットを発表した。

現在は筆ペンで色紙に似顔絵を描画するロボット「PICASSO-2」を研究・開発中。カシオ計算機研究開発センターと共同で、デジタルカメラで撮影した写真を似顔絵化する研究も実用化が進んでいる。

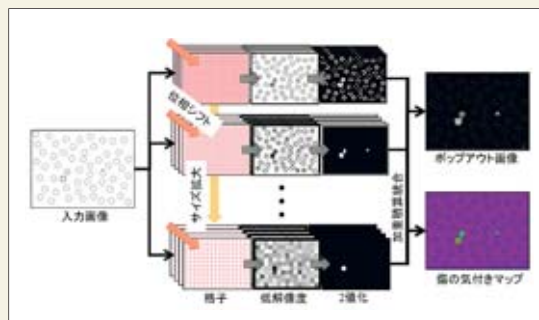
若手研究者を支援

「サッカーロボットの開発」や「ネットワークシミュレーションの研究」など、MRVラボは学生が研究活動する場も担っている。「Chukyo RoboStars」をはじめとする学生選抜チームは、眼、頭脳、手足を持った完全自立ロボットを研究、開発する。沼田宗敏所員(工学部教授)の指導の下、2010年からロボットのサッカー大会「ロボカップ」に参戦し、昨年初優勝を果たした=19面参照。



人工知能
高等研究所

身近な技術 産学共同で支える



周辺視と固定視点で学ぶキズの「気付き」処理



研究所 DATA

開設 1991年

研究員数 139人 ※内訳: 所員120人、準所員19人

定期刊行物 『IASAI News』(年2回)

公開講座

「この時代の工学教育を展望する」(2014年度)

小学生向け講座

「においを消す不思議なタマゴを作ろう!」(2014年度)

2. インドで現地の生活に触れ 歴史や社会的背景を理解

国際英語学部

榎木 鉄也 ゼミ〈4年〉

本や文献からインドの経済や歴史について研究を進め、映画などから文化を探る榎木鉄也教授のゼミ。榎木教授は「報道や偏見に惑わされず、本質を自分の目で確かめ、判断する力を養ってほしい」と、希望者を毎年インドに引率している。授業で得た知識を基に、異文化理解をさらに深めることが目的だ。昨年度は12月から1月にかけて、3人のゼミ生とIT産業で発展を続ける中南部のハイデラバードに渡った。

「GDPが世界10位なのに、中間層でもこんなに狭い家に住んでいるなんて」。鬼頭尚子さん(4年)は数字とのギャップに驚いた。現地の人たちでにぎわう屋台の食事は日本円で約10円、サラリーマンのランチは約100円。一方で、街中のコーヒーチェーン店は1個3,400円のケーキを提供していたが、常に満席だった。「インドの一人当たりGDPは平均より大幅に低く貧しい人が多いが、抵抗なく高い外食ができる層も少なくない」と、鬼頭さんは分析する。

現地の人と同じ目線に立つために公共交通機関を利用して移動すると、物乞いをする未就学児も多く見かけた。榎木教授によると、イスラム社会では持つ

ている人が持っている人に進んで金品を渡す「喜捨」を善しとしているという。伊藤聡美さん(4年)は「カンボジアなどのヒンズー社会と宗教的な背景が異なるため、アジア内でも

同じ行為の意味が違ってくる。行動の根底にある考え方についてもっと掘り下げて調べたい」と話す。

ゼミは今年度の訪印を首都デリーに予定している。世界遺産や学校、日系企業などを巡る予定だ。伊藤さんは、日本のODAで整備された地下鉄などに注目している。「未開拓の分野を発見して文化背景に基づいた新しい事業を考え、ビジネスの相手として日本の技術を売り込んでいけたら」と、近い将来、社会人としてインドに渡る日も楽しみにしている。



インド映画を基に意見を述べ合う

国際マーケティング

3. ビジネスにおいて グローバルな視点養う

総合政策学部

太田プロジェクト研究〈2-4年〉

太田真治教授のゼミ(プロジェクト研究)が扱う研究テーマは、国際マーケティングだ。太田教授は、「海外の市場は日本と売り方が違うため、同じモノを持って行ってもうまくいかない」と、サービスやIT、外食産業、自動車メーカーなど、業種ごとに事例を挙げ、学生がグローバル視点を磨けるよう指導をしている。

2年次の第6回ゼミは、昨年、洗剤を小分けにしてインドネシア進出に成功した日用品メーカーの花王を取り上げた。同社は人口の約半数を占める中間層

にアプローチするため、同国の小売りの特徴を生かし、家庭訪問でニーズを掴んだ。学生たちは「国や地域に合わせた市場調査が大切」と感想を述べ合った。

佐治茅波さん(2年)は「サントリーの天然水やナイキのスポーツ用品など、知っている企業が題材なので関心が高い。戦略を比較することで、世界と日本が繋がっていることを実感する」と話す。佐治さん含め、もっと世界を見据える力を付けたいと、太田教授の授業「国際マーケティング論」も受講するゼミ生は多い。

ビジネス情報を、収集する力・読解する力・整理して伝える力を鍛えることを目的にした「ネット演習」も太田ゼミの特徴だ。3年生は1コマの中で、その日のテーマを各自5枚のスライドにまとめる。山内芳南海さん(3年)は、「テーマは海外進出している経営者の成功事例で、人生の参考になる。長い文章を簡潔にまとめる力も付いている」と効果を実感する。「国際経営・国際マーケティングの知識をしっかりとった上で、知識に基づいた提案ができるようになってきている」と、太田教授は指導への自信をのぞかせた。



ネット演習でプレゼン作成に取り組む3年生

ゼミに + フォーカス focus on seminars

【第5回テーマ】「国際的な課題」

グローバル社会で本質見つめ 多角的な視野を養う

近年、急速にグローバル化が進み、世界の国々における相互影響や依存の度が高まっている。環境問題や貧困、紛争など、一国にとどまらず国際社会全体で協力し、取り組むべき課題も多い。

今回は「国際的な課題」をテーマに採用している法学部、国際英語学部、総合政策学部の3ゼミを訪れた。教材となるのは、アジアにおけるマーケティングや、貿易自由化の賛否などの最新のニュース。学生たちは、社会や世界の変化を知りながら活発に意見を交わしていた。

国際法

1. イルカ漁や貿易自由化 身近な話題を法的に理解

法学部

小坂田 裕子 ゼミ〈3-4年〉



意見を述べ合う小坂田ゼミ生

小坂田裕子准教授のゼミは毎時間、国際法から2件、時事問題から1件の事例を取り上げて学生が発表を行い、意見を述べ合っている。領土問題や貿易自由化、ヘイトスピーチなど、私たちが日頃のニュースで見聞きする国際的な課題を法的に理解していく。小坂田准教授は時事問題を扱うとき、必ず賛成派と反対派の双方からものごとについて考えるよう促している。いろんな立場があることを理解した上で、なぜ学生自身がその視点に立つのか、論理的に説明できるようにという思いからだ。

6月11日のテーマの一つは、水族館への影響で注目される“イルカ追い込み漁”。河西聖奈さん(3年)が「牛や豚、魚は殺して食用としているのに、イルカだけが“かわいそう”な理由で倫理規範に違反しているとは言えない。捕獲量も国の規定範囲内だ。私はイルカ漁に賛成する」と発表した。小坂田准教授は「例えばイルカ肉をネットショップで売るとき、同社の不買運動が起こりうる。これを理由に多くの店舗がイルカ肉の取り扱いを止め、売場所がなくなっても獲り続けるか」と、検討するよう議論を促した。「伝統文化だから漁は続けた方が良いのでは」「東京五輪のボイコ

ットなど、日本が世界から孤立したら困る」と、学生たちは意見を飛び交わせた。

ゼミは昨年、伝統的に捕鯨を行う和歌山県太地町で合宿を行った。学部のプレゼン大会でテーマにした捕鯨問題の現地調査が目的だ。バスの移動時間を使い、イルカ漁が題材の映画「ザ・コーヴ」を鑑賞。同町立「くじらの博物館」でクジラショーを観て、現地の漁師から漁の話聞いたあと、クジラ料理を体験した。多角的に分析され、生態系にまで言及した小坂田ゼミのプレゼンは大会で優勝を飾った=写真(下)。

3年次のゼミは最初に映画「ルワンダの涙」を鑑賞している。映画の題材は1994年、アフリカ中部に位置するルワンダ共和国のフツ族とツチ族



の民族紛争から起きた大虐殺事件。国連に軍を提供する国の兵士が攻撃のターゲットとされ犠牲者が出たことなどから国連はPKOを撤退する。小坂田准教授は「国益に関係なく国際的に働きかけることがいかに難しいか、国際法の限界を知った上で、できることは何か考えてほしい」と学生たちに伝えている。南大騎さん(3年)は「著作権法にしか興味がなかったが、みんなの発表を受けて考える中で民族や国境をめぐる紛争などにも関心を持つようになった。これまでと違った視点を持つようになり、知識が増えていくことが面白い」と意欲的に話している。

現代社会学部 辻井ゼミ、工学部 曾我部ゼミ

自閉症への理解呼びかけ

テレビ塔を青色にライトアップ

現 代社会学部 辻井ゼミ(指導教員:辻井正次教授)は、発達障害を持つ人々への支援について研究しています。自閉症の子どもたちを支援するボランティア活動にも参加しています。

世界自閉症啓発デーイベント「僕らのランドマーク-テレビ塔 Light It Up Blue(LIUB)Nagoya 2015」が4月2日、名古屋で初めて行われました。私たちは、LIUB名古屋学生実行委員会として、「自閉症をはじめとする発達障害について、多くの人に理解してほしい」という想いから運営に携わりました。企業への協賛やボランティア参加への呼びかけ、マスコミの依頼と対応、webを使った情報発信、イベント進行準備などを行いました。

当日は、多くの発達障害のある方や自閉症児をもつ家族の方々に参加して頂きました。将来、自閉症の人々が生き生きと暮らせる社会にできるよう、今後も様々な活動に取り組んでいきたいです。

(辻井ゼミ 現代社会学部4年 小木曾 友美)



①青くライトアップされた名古屋テレビ塔
②曾我部ゼミ生が作成した、スマートフォンを振ると青く光るサイトで会場を青に染める学生ら

工 学部映像メディア表現研究室(指導教員:

曾我部哲也講師)は、映像やゲームを用いての社会へのアプローチをテーマに作品制作や研究を行っています。私たちはイベントで、「AR」を用いた自閉症啓発を促すゲームアプリの開発、点灯時間にむけてカウントダウンする特設サイトの作成、当日の様子のライブ動画配信、の3つを担当しました。

来場者が楽しそうにアプリを使ってくださっている様子を目の当たりにし、とても嬉しくなりました。今後もこのような「使ってもらえるものづくり」をしていきたいです。

(曾我部ゼミ 情報理工学部4年 三輪修平、工学部3年 大嶋克聡)

学内公募型「旅行商品開発プロジェクト」始まる

中京大生の旅行企画を商品化

JAL、名鉄観光サービスと提携し2回目

学内公募型コンテスト「JAL(日本航空)・名鉄観光サービスとの産学連携による旅行商品開発プロジェクト」が6月9日、スタートした。24グループ50人の学生たちが事前説明会に参加し、趣旨や企画書の作成方法、スケジュールなど詳細を確認した。

2回目の今年はJAL「わく旅キャンペーン 名古屋-バンコク線」を企画する。付加価値やテーマ性があり、20-30代の顧客がわくわくする旅の開発がテーマ。最優秀に選ばれた企画は、来年7月以降に商品化される。

JALの山本達也統括マネージャーは「商品企画からお客様に買っていただくまで、実際に商業活動を経験する機会にしてほしい。価値のある一点ものの企画を待っている」と呼びかけた。説明会に参加した総合政策学部のメンバーは「タイの知識をしっかりと



山本統括マネージャーの説明を聞く説明会参加者

と学び、内容や見せ方も工夫して商品化を目指す」と気合を入れていた。

「一点モノ」企画 応募して

対象…1-3年生(3-6人のグループ)
※事前説明会に参加してなくても応募可。
締め切り…8月20日(木)
詳細は広報課、ホームページ
<http://www.chukyo-u.ac.jp/news/2015/05/008997.html>へ。

総合政策学部 宮川ゼミ

若者向け観光ルートを提案

松阪市の委託で魅力を発掘

総合政策学部の宮川プロジェクト研究(宮川ゼミ、指導教員:宮川正裕教授)が松阪市の事業を委託され、7月13日、若者向けの観光マップ作成等を盛り込んだ観光資源調査結果を報告した。

宮川ゼミ(3年生10人)が委託された業務は「松阪市西部地域における観光資源の調査研究・企画造成委託業務」。同市の飯南地区と飯高地区における①観光資源の魅力度調査②観光資源の発掘調査③20代前半の男女をメインターゲットとした観光ルートの企画造成④報告書の作成などを行う。2014年4月に本学が松阪市と結んだ「人材育成と地域振興」に関する協定に基づく。

ゼミ生らは、今年4月より飯高駅や松阪茶の販売店など16施設を訪れ、そば打ちやピザ焼きなどの体験施設や、周辺の観光スポットについて聞き取りを行うなど現地調査を重ねた。加えて、学内で実施したアンケート調査結果を踏まえて、観光ルートの提案企画をまとめた。

最終報告では、単なる観光企画提案にとどまらず、地域活性化取り組み先行事例から学び、クレソン畑



観光資源調査のためそば打ちの体験に挑戦する宮川ゼミ生

の開発促進や関連商品の企画提案、埋もれていた観光資源の開発提案など、「地域経営資源を活用した地域活性化」に向けた取り組みについても言及した。

山中光茂市長は、「若い人たちの発想は素晴らしい。私達では発想できないことを取りまとめてもらったこの調査報告は、大きな財産です。直ぐに活用させていただきたい」と感謝の意を表した。

宮川ゼミは、これまでも「政策コンテスト〈未来松阪市2014〉」での政策提言や、同市内の菓子製造販売企業との産官学連携商品開発等に取り組んでいる。

ロボカップ ジャパンオープン

本学が2連覇

工学部の学生選抜チーム



決勝戦でプレーするAi-Robotsのロボット

ロボカップジャパンオープン2015(5月2-5日、福井県産業会館)で、工学部の学生選抜チームAi-Robotsがサッカー小型ロボットリーグのヒト型で初優勝した。中京大学としては昨年に続き2連覇。

同リーグには車輪型とヒト型を合わせ11チームが参戦した。試合中はコンピュータ、ロボット、リモコンなどを一切触ることができない。全自動の2足歩行ロボット3台が1チームとなり、ロボットが自ら「見る」「考える」「動く」ことで競技を行う。

決勝戦の相手は本学のChukyo RoboStarsで、昨年の優勝チーム。PK戦までもつれ、Ai-Robotsのキッカーがゴールポストぎりぎりに鮮やかなシュートを決め激戦を制した。Ai-Robotsは工学部「プロジェクト活動助成」、人工知能高等研究所「Aiロボットプロジェクト助成」の支援を受け、有志による研究活動を行っている。荻矢陸央さん(3年)ら学生9人と顧問の沼田宗敏教授、監督の佐藤俊郎教授が中心となり取り組んできた。工学部実験棟の工作機械などを駆使して、足など一部のパーツを独自に作成して臨んだ。

ロボカップは「サッカーの世界チャンピオンチームに勝てる、自律型ロボットのチームを作る」という夢に向かって人工知能やロボット工学などの研究を推進する世界プロジェクト。創設には本学工学部の前身、情報科学部初代学部長の福村晃夫名誉教授が大きく関わっている。



▲日本ボクシング史上最速で世界チャンピオンとなった田中恒成選手(右、経済学部2年、ミニマム級)。学内の応援会で約230人の学生らが声援を送った

グローバルに活躍



▲アメリカのオープン大学モントゴメリー校の学生との1日国際交流で、英語による研究発表を聴講する経営学部生



▲三重県松阪市の委託事業で観光資源を調査、体験する総合政策学部宮川ゼミ生



▲名古屋キャンパス周辺を清掃する学生ボランティア。毎月、定期的に活動している